

# @TOKYO\*



## ビルの屋上

東京のビル屋上に、自然が増えている。生き物が暮らす環境を再現したビオトープや庭園が廃校やデパートに作られ、銀座の真ん中で今春から養蜂も始まった。

廃校となった渋谷区の旧原宿中学校の屋上。かつての二

十五層プールはハスがつぼみをつけ、ヨシやガマの茂るビオトープになっている旧原宿中学校の屋上プール。周りはビルだが、ここはのんびりした雰囲気だ。東京都渋谷区

# 「癒やし」の自然空間

## 畑や庭園、養蜂の場にも

オトープに生まれ変わっている。プール隣の元バスケットコートは一般の人が使用できる菜園で、ナスやトマト、枝豆などが育つ。手入れにきた主婦飯塚広美さん(金)は「土や緑に触れるのは気持ちがいい。夏の夜はホテルがきれいですよ」と話す。取れたての野菜を使った献立は家族にも大好評だ。

品川や渋谷の区庁舎屋上も緑化され、デパートにも屋上庭園が増えている。昨年開園した日本橋高島屋のほか、新宿の伊勢丹本店でも六月、屋上庭園「アイ・ガーデン」がオープン。約二千平方メートルの回遊庭園にはキンカンやアジサイなど約二百種類が植えられ、チョウが舞う。妻の買い物を待っていた世田谷区の無職男性(金)は「こういう空間

がもっと増えるといい。癒やされるね」。

銀座三丁目の紙パルプ会館ではこの春、屋上で約十萬匹のミツバチが飼育された。街路樹や浜離宮、皇居のソメイヨシノやユリノキなどから百五十キ以上のみつが採れた。「養蜂で樹木が受粉して実がなり、小鳥が来るなど、街で生態系に気付くようになった」と銀座ミツバチプロジェクト世話人の田中淳夫さん(金)。花の香りが漂う「銀座ハチミツ」は、洋菓子に使われて松屋銀座などで販売されるブランドになった。田中さんは「都会で長い間排除されていた自然が、今や新たな価値を生んでいますね」と話している。

クナンバーを片っ端から読んで作品を選び、解説やコラムを執筆した。創刊号の目次には、ダシール・ハメット「雇われ探偵」、エラリー・クイーン「運転席」などが並んだ。

初期の翻訳者には、江戸川乱歩、鮎川信夫、田中小実昌らこそつ

限らず、ホラーやSF、幻想小説など間口を広げ、文芸誌として面白い短編を載せていきたい」と活路を探っている。

そうは言いながら、翻訳ミステリーのファン層は厚い。五十周年記念企画の「エッセイ大特集」には、写真家の浅井慎平、解剖学者

「ミステリマガジン」50年記念のイベントが開かれた書店。東京・神田神保町

